

# おがわ

小川村ふるさと通信



高山寺で朱に染まる紅葉に日の光が差し込んでいました。  
それは終息を願うコロナ禍の中に照らす光明の様でした。

(写真 松本博充)

- 小川に生きる
- 小川の歴史 - 運動会 -
- サークル紹介
- 女性消防団員紹介
- 図書だより
- 分館紹介 - 久木分館 -





権守

司さん  
三千恵さん  
(表立屋)

表立屋の山間にひっそり佇むお店「russica（リュイソー）」。古民家を改修し、今年の6月に開店したこのお店を営んでいるのは、昨年4月に北海道美瑛町から移住された権守司さん、三千恵さんご夫妻です。

以前、三千恵さんが長野県内で仕事していた時から、いつかは長野県に住みたいと思っていたそうで、県内の空き家情報を紹介するサイトで表立屋の物件を見つけ、田舎だけど利便性の良さ、移住者への支援も手厚いと知り、小川村への移住を決意したそうです。

ご主人の司さんは、10年ほど調理師として働いていた経験があり、移住する時から表立屋でお店を開きたいという思いがあったそうです。そして、約一年かけて古民家を改修。『古民家らしく』



どこか懐かしさを感じる店内

をイメージして、壁の塗り替えなどできるところは自分たちで改修し、出来上がりはほぼ理想通りだったそうです。改修の間は小

根山町に生活の拠点を置き、お店の開店と共に表立屋に移り住みました。

「小根山町でも表立屋でもみなさんが温かく迎えてくれてとても嬉しかったです。」と三千恵さん。特に表立屋には若い人が少なく、いろいろな面で頼りにされているようです。

そして、司さんは、立屋に住む若者5人と高齢化で継承ができなくなっていた立屋のお囃子を復活させようと、同じお囃子の流れをくむ塩沢の方に教えてもらい練習に励んでいます。「本当は今年の祭りで披露する予定でしたが、コロナの影響でできなくなり残念です。来年には是非皆さんに披露できればと思っています。」と来年の祭



前菜、パンも手作り



小川のかぼちゃスープです

りを楽しみにされています。

お店は現在、週末の昼のみ営業しています。ご夫妻のこだわりは、できる限り村の食材を使うこと。私がお邪魔した日も小川の季節の野菜や食材がふんだんに使われた料理を出して頂きました。一品一品素材の味を大事にしている



このお皿も特注です

ことが分かり美味しく頂きました。また、使われている食器も村内で陶芸をしている方に特注で焼いていただいた物。小川村の良さを「食」を通して伝えたいという気持ちで伝わってきました。そして、店名の「リュイソー」はフランス語で「小川」の意味。お店のロゴも「小川」をモチーフにデザインしたとのこと。地域のみなさんへの感謝の気持ちと小川村への思いが込められていると感じました。今は、主に長野市や近隣町村からのお客様が

多いとのことですが、村の方たちにも是非気軽に足を運んでもらいたいと話されています。

三人の元気なお子さんと立屋で生活するお二人にとって、今楽しみに



子ども用パスタ、本格的です

していること。それは、もうすぐ若

いご夫婦が近所に移住してくること。

「立屋もにぎやかになって良いと思います。」「お囃子も一緒にしたいですね」と今から楽しみにされています。

その一方で、「子育て世代が移住す

るにあたり公共交通などのソフト面

が充実したらより子育て世代に魅力ある村になると思います。」と移住された方の視点から貴重なアドバイスをいただきました。

そんなご夫妻の将来の夢は、「癒しの場」として訪れてもらえるような宿泊施設兼カフェレストランを営むこと。併せてリング栽培をすること。ご主人の司さんは、美味しいリングを作るべく成就で修行もされているとのこと。ここ小川で大きな夢が広がっています。



「小川」をモチーフにしたロゴ

お二人のやさしい笑顔と親しみやすい気さくな人柄にふれ、普段と違う癒しの空間で美味しい料理をいただき大満足のひとつでした。ありがとうございました。



# 小川の歴史 村民運動会

東京オリンピックが新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期され、小川村でも、予定されていたスポーツフェスティバルは中止とせざるを得ない状況となりました。今年のスポーツフェスティバルはオリンピックに合わせて時期をずらし、パブリックビューイングを行う計画が進んでいたとか。コロナ禍での制限は徐々に緩和されつつありますが、今年イベントが次々と中止になったことで、村民の皆さんとの交流の場が減り、物足りなさを感じている毎日です。私たち編集委員もこんな時期だからこそ、皆さんにより楽しんでもらえる記事にしたいと思っています。

さて、そんな中今回選んだテーマは「村民運動会」の歴史です。

村民運動会は北小川村と南小川村が合併した昭和30年以前からそれぞれの村で行われており、合併以後も長きにわたり続けられてきました。平成20年には規模を縮小し「村民ピック」に名称を変え、2年前の平成30年には体験型の「スポーツフェスティバル」として生まれ変わりました。試行錯誤しながら形を変えてきた小川村のスポーツ情勢を振り返ります。

## 《合併前の村民運動会》

村民運動会の歴史は北小川村・南小川村ともに昭和26年から始まりました。今では毎年10月の「体育の日（スポーツの日）」にスポーツ行事が組み込まれています（昭和62年までは11月の「文化の日」に合わせて開催されていたそうです。当時の南小川村の「館報おがわ」には第一回目の村民運動会の記録が残されていました。

二千数百人の観衆を集めて盛大に挙行された南小川村第一回村民運動会は、定番の百足競争や二人三脚のほか、ダルマ引きや消防の支度競争など全30種目というポリュミーなプログラム構成でした。またスクエアダ



「仮装行列のようす」  
(昭和26年南小川村第1回村民運動会)

ンス(4組のカップルが1セットになり、コーラー(動きの指示役)の指示に従って踊るフォークダンスのようなもの)や会場を抱腹絶倒の渦に包んだ奇想ではいられない団長の頭の反射で拍手が迷ふといふ部落もある。太鼓が鳴れば負けずにダルマが踊りだす、部落が競技を通じ応援を通じて血のつながりをもつて来る、隣の仲の悪い人もこの時はどうしても味方になる。これを自覚にまで高めたら村民運動会變(へん)じて村創りの村民大会となる…とは誰かの辯(べん)。(記事より抜粋)―ちなみに第一回目の優勝杯は夏和チムへ授与されたそうです。翌年の第二回からは応援団コンクールやマラソンが競技に組み込まれるなど、村民運動会は代表的な文化祭企画となりました。

### 《合併後の村民運動会》

昭和30年11月3日。合併後初めての第一回村民運動会が開催されました。旧南学校グラウンドに村の隅々から数千人の観衆が集まり、南地区6、北地区6の計12チームが参加し盛大に行われました。そんな記念すべき一回目の運動会では、定番種目に始まり、男性陣の力の見せ所である俵かつぎなどが行われ、熱い戦いが繰り広げられました。他にも、信濃の国などのダンスや、婦

奇抜な仮装行列などの華やかな見せもので会場を沸かせました。―「部落対抗なので自と小学校の運動会とは潜在意識が違ってくる。応援も競技と一つとなる、学童に赤だすきが飛び出せば、隣では中老が日の丸を振り廻す、そうなると頭に毛が疎らになったことなど考へ



「久木チームの綱引き」(昭和51年)

の場にと、村民運動会は村民の親睦を深める貴重な場でもあったんですね。

### 《記憶に残る記念大会》

昭和49年の第20回では、記念の大会として民俗芸能の「祭バヤシ」が披露され、高府町若連と和手組若連が、それぞれ練習の成果を披露すると、観衆から盛んな拍手を浴びこの大会の特色となったようです。この大会では、久しぶりに「俵かつぎ」が競技に復活しました。

人会による「のぞみ音頭」など練習の成果を披露し、見る人を感動させたようです。また、

大いに盛り上がったのは競技だけではなかったようで、ある人は親せきの交歓となり、ある人は商談に、そして若者たちは見合い(?)

俵の重さはなんと42キロ!当時すでに俵とのつきあいがほとんどなくなり、扱いなれない選手も多く、大変苦労した競技だったようです。競技内容も生活の変化とともに変わっていったんですね。

また、昭和59年の第30回では、「輪・和」のスローガンのもと、各小学校6年生総勢70名による鼓笛隊を先頭にして入場行進が行われた華やかな開会式に始まり、中学生による美しい新体操といった小中学生の総参加により、いつも増して活気あふれる大会となりました。そして、この大会最大のイベントとなったのが、風船飛ばし!小中学生が夢や思いを書いた手紙を約600個の風船に付け、子どもからお年寄りまで校庭いっぱい一つの輪を作ると、一発の花火の音を合図にそれぞれの思いがこもった風船が青空へと飛んでいきました。そんな記念の大会が終わり、「あの風船どこに飛んで行ったかな?誰が拾ってくれたかな?」手紙を書いた小中学生だけでなく、全村民が注目していた風船の行方。何日かすると、数通の手紙が届き始めました。差出は、篠ノ井小松原から、群馬県、栃木県、茨城県からなど



「青空へ飛んでいく風船」  
(昭和59年第30回記念大会)

が広がった、心温まる記念の大会となったようですね。

## 《村民ピック・スポーツフェスティバル》

その後村民運動会は平成18年度の第52回まで続けられました。人口の減少や生活の変化により継続が難しくなったため、平成20年からは規模を縮小した「村民ピック」がびつくらんど小川の体育館で行われるよう

予想を超える範囲の方々に届いていたようです。手紙の中には、自己紹介をする人や、「一生懸命勉強してくださいね」といった励ましの内容などもあり、大会の「輪・和」である「輪・和」

になりました。時間を午前中のみに短縮し、村民運動会の醍醐味となっていたお酒を飲みながらの応援もなくなりましたが、次第に開催すること自体に対し疑問の声が上がリ、全9回で幕を閉じました。

しかし、スポーツ行事の在り方を検討する中で、完全に廃止としてしまうのは寂しいという意見が多く、新たに体験型の「スポーツフェスティバル」の開催に乗り出しました。会場を分散し、従来の対抗形式ではなく、みんなが気軽に参加でき、今までやったことのないスポーツに触れることができるこの企画は、スポーツの楽しさを改めて実感し、自身の運動習慣を見直すきっかけにもなるとして、好評を得ているようです。

形は変わっても村民の大事な場であることに変わりはありません。今はまだ難しいですが、早くまたみんなで集まってスポーツを楽しめる日が来ると思いますね。

〔参考・引用文献〕館報おがわ縮刷版、小川村発足50周年記念写真集『おがわの百年』

サークル紹介（参加してみました！）

## 小川短歌会

今回は小川短歌会にお邪魔  
させていただきました。公民  
館の階段の所に展示されてい  
たり、信毎や週刊長野に掲載  
されることもあるのでご存知  
の方も多々と思います。新成  
人への応援短歌、小川神社の  
御射山祭で奉納短歌もされて  
います。

短歌とは和歌の形態の一つ  
で「五・七・五・七・七」から成り、  
数え方は「首」です。百人一



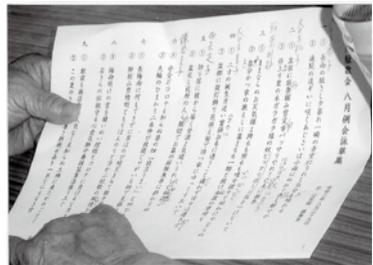
首や若山牧水、石川啄木、俵万  
智らが有名ですね。

小川短歌会の前身は西山短歌  
会で百年以上の歴史があり、西  
山地区は『詩や歌の里』と呼ば  
れていたそうです。小川村が再  
びこう呼ばれるといいですね。

また、西部農学校（現長野西高  
等学校中条校）の校歌を作詞された藤園さんは農学校の  
教員であり、西山短歌会の会員だったそうです。



短歌会は第二土曜日までに一  
人二首提出し、講師の先生（今は  
コロナなのでお休み）が事前に添  
削をしてくださり、第四土曜日に  
例会が行われます。短歌の書かれ  
た紙が配られ、順に一人ずつ読ん  
でいき、感情や情景を説明し、皆  
さんでディスカッションし、講師の

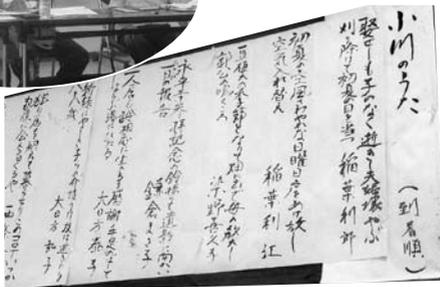


先生の講評を聞きます。やりとりを聞いていて「?!」と思ったのが、ご自身の詠んだ短歌を説明していたわけではなく、初見で感情や情景を語っていたことに驚きました。名人級の方がたくさんいるので、「なるほど」と感心することも多かったです。

短歌もリズムや音おんが大切だそうです。流れをよくする語順、助詞の使い方、言葉の意味の理解……。情景が浮かぶ様に詠めるといいそうです。

どんなふうに詠んでいるのかお聞きしたところ、何人かはポケットに紙と鉛筆を入れておき、思いついた時にメモしておくそうです。後で改めて読み返すと、納得出来る時と出来ない時とあるそうです。私も参加させていただいた後から、あれこれ頭の中で考えてみますが（時々季語なしの俳句に）、言葉選びが難しいです。

今年発刊第三十四集を迎える歌集『小川のうた』が公民館



にあります。ぜひ皆さんの名作をご覧ください。短歌会の詳しいことは公民館にお問い合わせ下さい。短歌会の皆さんありがとうございました。

恋し文 手紙が「LINE」に 変わっても  
送るか躊躇ためらう 指は変わらず

(松本の駄作)



# 女性消防団員紹介

近年、どこの市町村も消防団員減少の中で、今年高府町分団に女性の消防団員が入団されました。

元々本部には、役場職員である女性の消防本部員の方々が活躍されていますが、分団に入団された女性の消防団員は、今回が初となります。

入団された方は、高府町出身の小林志穂さんです。小林さんにはこれからも、女性であるから故の視点で、ママさんパワーで分団のみならず、団全体をも盛り上げていってほしいものです。

**大切な生命を守るために！**

**ひとり一役全員主役**

高府町 小林 志穂

まずもって、全国各地に猛威を振るった洪水・火災等により、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

ます。

さて、この度5月1日より、新たに小川村消防団高府町分団へ入団いたしました小林です。





私が入団するきっかけとなったのは、何気ない副団長との会話からでした。これから先は、女性の力も消防だけではなく、大切になってくるんじゃないかとの

話からでした。

先日、84才になるおばあちゃんと話をした時、「昔は皆20才になると消防に入ったもんだ。」とお聞きしました。昔の方が人口も多かったはずなのに女性も消防に入る当たり前の時代だったのです。そして、時代も大きく変わり令和時代の今、「女性が消防に入ったって何するんだい？」と思う人も沢山いると思います。

でも、私はたとえ火が消せなくても、女性ならば出来る消防業務が沢山あると思いました。その一役になればとの思いで入団を決めました。

職場、家、地域、どんな中でも、災害に対する皆が一人一役の意識を持つ事が大切だと私は思っています。

これから寒くなります。家でこたつの番をするのも家族にとって大切な一役です!!これから、新たな感覚と女性目線で消防活動に取り組んでまいります。

体ばかり大きく何もできておりませんが、分団の皆様は温かく迎え入れて頂き、ご指導頂き、心より感謝しております。

女性の皆様、ぜひ一緒にやりましょう!!

# 図書委員から おすすめ本

図書委員から『クリスマス』と『お正月』におすすめの本を紹介します。



## 『しろくまんのクリスマス』

／H・スティックランド



小さいしろくまんは、クリスマスイヴに、お月さまに照らされた雪野原にぽっかり空いた穴に気がきます。のぞいたとたん、ころげ落ちて

…子どもはもちろん大人もサンタクロースの世界を楽しめます。

## 『クリスマス★オールスター』

／中川ひろたか



サンタさんを待っているのは子ども達だけじゃない。大人だって楽しみにしています。本に出てくるオールスターって誰だろう？

本を読む前にみんなで予想してページをめくるとより楽しめますよ。

## 『ぐりとぐらのおおそうじ』

／ながわりえこ



ふゆのあいだずっとお家でこもっていたぐりとぐら。お家がほこりだらけになっていたことにビックリ!!

さあ、2ひきは大そうじしようときめました。年末の大そうじの前にお子さんといっしょでみてはいかがですか？

## 『サンタクロースってほんとにいるの?』

／てるおかいこ



サンタクロースってほんとにいるの? どうしてほくのほしいものがわかるの? …世界中の子ども達がふしぎに思っている事がわかるかも! 親子で寄り添って楽しく読める1冊です。

第104号  
図書委員会

## 『気楽に作るおいしいおもてなし』



クリスマスやお正月、友達や親戚が集まる時においしい料理とお酒があれば最高!! この本ではちょっとしたおつまみやおしゃれな軽食が気負わず作れちゃうヒントがあります。無理せずおもてなしを楽しみましょう。

## 『家族に和のスイーツ』



クリスマスにあえて和菓子のサブライズというもどくでしょうか? むずかしそうなイメージですが、意外と? 簡単に作れるものもあります。クリスマスやお正月にみんなで和菓子を食べるのもいいですね。

## 『和モダン手づくり年賀状』



そろそろ年賀状を準備する時期ですね。今年は一味違った暖か味のある手作り年賀状を作ってみるのはどうですか? 消しゴムはんこや切り絵などいろいろな種類が載っています。相手の事を想って一枚書くのもいいですよ。

## 『世界一親切な 12 カ月おやつ』



身近な材料で、季節感のあるおやつが作れます。成功のポイントや注意点、作り方の流れが写真で解説されているので初めてでも失敗なく作れます。レパートリーをひとつ増やしてみませんか?

# 冬のおはなし会&クリスマス予告

今年の初イベントが遂に開催されます！

毎年、大好評の『冬のおはなし会&クリスマスパーティー』を開催予定です。今年はいろいろと制限があり、子ども達が大好きな調理の時間はありませんが、代わりに工作をして素敵な1日になる様に企画中です。



小学生限定になりますが、ぜひ参加してください。

詳しくは後日、発行するチラシ・ポスターをご覧ください。



▲昨年のイベントの様子



▲ヒンメリ

※今後の新型コロナウイルス感染症の状況により変更する場合があります。

## ブックスタート ～生後6ヶ月の赤ちゃんへ本のプレゼント～

『子どもに読んで聞かせたい本は？』

令和1年11月から  
令和2年2月生まれの赤ちゃん

『いのちのつなごはぬい』  
松谷 みゆ子



内山 うちやま  
稜己 いつき  
くん

『フラネコくんだんシリーズ』  
工藤 ノリコ



小澤 おざわ  
太陽 たいよう  
くん

『そのままのきみがすき』  
ルケード・マックス



大塚 おおつか  
夕愛 ゆあ  
ちゃん

『買ひものは投票なんだ』  
藤原 ひとみ



宮永 みやなが  
賢仁 けんと  
くん

## 館紹介

### 久木分館

### 団結力と地域の絆で

昭和58年には戸数が40戸、時代流れと共に戸数の減少と人口の減少で現在は23戸、戸数の少ない方から3番目の分館です。

田島・穴尾、中村、本郷の三地区で構成され、主事を含む分館委員4名が中心に活動しています。

主な行事を紹介しますと、春には区民全員が参加できる研修親睦旅行を計画。今年は新型コロナウイルス



研修親睦旅行

感染拡大防止の為に幾つかの事業を中止しました。例年ですと毎年楽しみに長野市在住の方も参加協力をいただき、送迎ができる温泉地を計画、昨年は稲荷山温泉で一日親睦を深めました。

8月には区民スポーツ大会を計画お盆の帰省客も一緒にゲートボールで身体を動かし、後のビールと焼肉・焼きそば交流会を設定、毎年お互いの健康の確認や昔の思い出を語りながら懇親を深めております。

人数減少による老人クラブも活動一時休止となり「夏和区・花尾区・久木区」の老人クラブ『花・夏・木会』のゲートボール大会も久木区は先輩方々の身体が動ける間、分館事業として計画、区民も参加してそれぞれの他地区の皆さんと懇親を深め継続しています。

景観整備として花桃の管理を「花桃の会」と



「花・夏・木会」ゲートボール大会



花桃の郷をめぐし管理

協力し地域が花で癒されることを思い分館として草刈整備を年2回実施、生活センター周辺の景観整備、花壇の整備、また分館協力行事として秋葉神社の例祭など高齢化と少人数ですのでそれぞれの立場で協力し団結力で活動をしています。

合同研修会は、毎年2月には夏和分館と歴史ある『夏和・久木合同研修会』を計画、昭和53年から42回が経過、講師には地域に関係ある方・健康講座等身近な演題で講演、後の懇親会も親睦と融和に向けて継続しています。合同研修会は昭和



秋葉神社例祭



「夏和・久木」合同研修会

53年に本館の事業として取り組んでいました「同和教育」、「青少年の健全育成」の問題を双方の分館長、主事で分館が将来的に一緒に活動できる事業として今日に継続となりました。

令和2年度の事業計画

は今までに経験した事の無い環境ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策による分館活動の自粛と、戸数と人口減少、高齢化の進行により社会教育活動が出来る事業を模索しながら団結力のある地域であります、地域の絆を深め知恵を出し合いながら本館事業への協力と希望の持てる分館活動に取り組みたいです。



久木分館長  
久田 茂男さん

## コロナ禍から学び、

### 新しい生活様式を考えましょう！

小川村公民館 館長 松本 貴秀

大きな夢と希望を抱いて令和2年度が新たにスタートしました。しかし、世界中を恐怖のどん底に陥れた病原菌「新型コロナウイルス」の発生である。日々の感染者増加に日本中大混乱し、人々の生命、生活をことごとく破壊してしまい、見えない敵との葛藤に希望さえ失いかけていました。

政府政策の不透明さと方針の食い違いもあり、経済界、教育界、医療機関は大混乱となりました。緊急事態宣言により、外出自粛から経済界は停滞し、教育界は休校、会社や教育界はリモート活用等による新たな生活方式対応にも課題山積であります。

こうした大変革期において、私たちは何を思い何を感じているのでしょうか？

新型コロナウイルス感染から学習したことは、「組織」「支援」「情報」の不明確さから現場の混乱は大きく、国民は感染後の対応に不安を抱いております。

長期化する感染拡大防止並びに自然災害発生を考えると、発生の連絡先、報告先、担当部署等の窓口は不明確で分かりにくく混乱の要因と考えられます。住民の安心、安全サービスとして考えなければならないのは「緊急連絡網パンフレット」の配布が急務と思われれます。

もう一方で、心配される事は「心の安全対策」です。国民の心

のよりどころ、楽しみであるあらゆる伝統行事、イベント、旅行等が規制されて、中止、延期で国民の精神的苦痛は大きな問題となっております。

身近な公共施設も「3密回避」を基本に、行政の方針、業種別ガイドラインを優先する余り「無理だ」「危険だ」「止めよう」でただただ見ているだけの現状に疑問を感じている人は多いと思います。社会教育、生涯教育の実施拠点である小川村公民館も開催に向け悪戦苦闘し責任を感じております。やらなくては良いと言う理由をさがすのは簡単！やらなければいけないと要素を追及することは困難を要するも重要性を感じなければなりません。

小川村の将来は・・・高齢化が進み人口減少となる中で、人々の目標は、何に期待し生活していくのでしょうか？

新型コロナウイルス感染拡大防止策を機会に「新しい生活様式」を模索しながら、村民の負担軽減のため区、常会、分館、スポーツ団体、老人クラブ、女性組織等の集約、統合、縮小、廃止等の議論を積極的に進めることが重要と思われれます。この機会を捉え「変わろう」「変えよう」「守ろう」を新たな地域創りの目標とし、その先兵として、小川村公民館は、地域住民の交流の場・憩いの場としてより身近な公民館として新たな生活様式に取り組んで参ります。

人は、生きるために『わがまま』が必要です。その『わがまま』を楽しみに変えようではありませんか。小川村には、ロスタイムはありません。村民の皆さんと行政、関係機関部署並びに公民館分館は一体となり果敢なパス回しで新たな生活様式により、強い小川村目指して突き進んでいくことを望みます。